

平成23年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 29

政策体系	43	事業分類	ソフト事業	所管部局	企画管理部 情報推進課
会計	一般会計	科目	2.総務費 - 1.総務管 - 2.文書広 現年		
事業名	広聴活動費				
細事業名	広聴活動費				
評価表作成者				企画政策部 企画調整課	野々口 智司

1. 事業の概要

市政懇談会の開催。出前講座の開催。南丹市政へのご意見箱の設置。

2. 事業の目的と必要性

①施策で目指す目標との関連付け

市民ニーズを認識し行政サービスの向上を図る。

②事業を実施する必要性

市政懇談会では、市のまちづくりの方針を市民に伝えるとともに、市民の声を直接聞き、「市民の参画と協働」によるまちづくりを進める。地域づくり出前講座は、おおむね10人以上の団体の集まりで地域づくりに役立てていただくため、市職員が講師として出向き、市の事業や施策などについて説明する。これらの事業を実施することにより、市民ニーズを認識し行政サービスの向上が図れる。

3. 事業費の推移

	単位	平19決算	平20決算	平21決算	平22決算	平23予算	平24計画	平25計画
決算額または計画額	千円		73	55	0	0	34	34
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円		0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円		73	55	0	0	34
職員等の従事人員	人/年	—	1.10	1.00	0.80			
人件費	千円	—	6,909	7,496	6,187			
事業費総額	千円	—	6,982	7,551	6,187			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

公共施設等の活用により費用負担無し

5. 事業結果の概要

市政懇談会 12会場で開催
 出前講座 4回開催

6. 活動の詳細

1. 市政懇談会		
12会場で開催。 平成21年度のアンケート結果等を踏まえ、これまでの平日夜間に加えて、土日、昼間の時間帯において実施をした。	11/8(月)、11/10(水)、 11/12(金)、11/13(土)、 11/14(日)、11/15(月)、 11/17(水)、11/18(木)、 11/20(土)、11/21(日)、 11/24(水)、11/26(金)	11/8(月) 31人 11/10(水) 25人 11/12(金) 45人 11/13(土) 19人 11/14(日) 29人 11/15(月) 22人 11/17(水) 52人 11/18(木) 35人 11/20(土) 47人 11/21(日) 35人 11/24(水) 29人 11/26(金) 34人 計 403人
2. 地域づくり出前講座		
市の職員が講師となって会議や集会に出向き、市の事業や思索などについて説明する。テーマは34項目。	8/8(日)、8/9(月)、 10/29(金)、11/21(日)	8/8(日) 18人 8/9(月) 10人 10/29(金) 19人 11/21(日) 28人 計 75人
3. ご意見箱		
市のホームページや窓口に設置したご意見箱に、市長にへのご意見・ご提言をお寄せいただき、市政に生かす。また、市民の皆さんと情報を共有するため、ご意見等を広報等を通じて紹介する。	随時	82件受付 6・7月号、2・3月号にQ&Aを掲載

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

「市政懇談会」については、平成22年度に実施した際のアンケート等を参考に、開催回数や開催の時間帯について見直しを行い実施したことで、市民と懇談する有意義な場を持つことができたと考える。また、参加者数が平成22年度よりも増加したことは大きな成果だと考える。

「出前講座」については、年々申請者の数が減っているが、行政情報の発信の場、市民の皆様と状況を共有できる場として重要であると考えており、実施方法の見直しも含めた検討が必要と考えている。

「広聴」という部分については、市民参加や協働を推進していく上で重要なことでもあるので、今後も充実していきたいと考える。

【参考】過年度の評価

■平成22年度の所属長評価

「市政懇談会」については、開催時期・開催回数・内容について検討を重ね、行政からの説明中心の懇談会から市民と行政との意見交換に重点を置いたことにより、地域の課題やこれからのまちづくりについて共に考え合う懇談の場が持てた。併せて、市のホームページや本庁及び各支所に「ご意見箱」を設置し、市政に対する意見や提言を数多くいただき、今後の市政運営の参考になった。

今後は、「市政懇談会」「出前講座」とともに、開催案内やアンケート集計結果等を広報紙等で広く市民に情報提供し、市民参加へと繋げていく必要がある。

■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
市民の生の声を聞くため、より多くの広聴の機会を設定する方法を検討した。
- ②当該事業のアピール事項
行政懇談会では市幹部が市政の課題について説明し、直接市民の声を聞くことができた。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
市政懇談会の開催日時、会場設定、テーマ、参加者の再検討。